

豚熱県外発生地への防疫措置派遣報告(栃木県)

2022年7月23日に、国内83例目となる豚熱の発生が栃木県の農場で確認されました。当該農場と疫学関連農場を合わせて約56,000頭の殺処分対象豚がいる国内最大規模の発生であり、全国の家畜保健衛生所に応援要請がありました。当所からも2名の獣医師を派遣しましたので、その概要を報告します。

当該農場は栃木県那須烏山市にあり、繁殖から肥育まで手掛け、自社で販路も確保している一貫型の巨大農場です。派遣期間は8月19日～21日と24日～25日の各期間に1名ずつの派遣でした。日中の最高気温は30℃を超える猛暑でしたので、防疫作業は日没後に限定され、1クールあたり6時間の6班体制で実施されました。

肥育豚舎では、1班の動員者約30名をさらに3つに分け、同じ豚舎内の別のマスでそれぞれ作業を行いました。マスの中に入った動員者がパネルで豚を追い込み、獣医師が電殺機で殺処分を行います。

繁殖用母豚の殺処分は、1班の動員者約30名を現地で2つに分け、2豚舎を同時並行で行いました。繁殖用母豚のいる豚舎では、豚をストールから出入口付近まで誘導する係、出入口を封鎖する係、殺処分した豚にロープをかけてフレコンバッグ内に入れる係、豚が入ったフレコンバッグを重機で埋却地まで運搬する係、殺処分頭数を確認するための記録係など多くの人が作業に従事していました。

派遣された家畜防疫員は、電殺機と薬剤で繁殖用母豚を殺処分し、豚の死亡を確認する作業にあたりました。

繁殖用の母豚は体重が200kgほどあり、限られた畜舎内の空間に電殺機や薬剤用の注射器など扱いに注意が必要なものも沢山あるため、いずれの作業にも危険が伴いました。また気温が下がる夜間の作業とはいえ、防護服を身に着けての作業は過酷で、班員同士で体調を確認しあい、適宜小休憩を挟みながらの作業となりました。

当該農場は豚熱ワクチン接種農場でしたが、ワクチンブレイクや移行抗体の消失による免疫空白を完全に避けることは難しいため、ワクチンに頼りすぎない防疫対策が必要です。

今回の発生農場においても数か月にわたり防疫作業が行われています。発生農場はかなりの長期間休業状態となり、農家の経済的・精神的な打撃も相当なものであると思われまます。

このような状況は、いつどこで起こるかわかりません。飼養衛生管理基準をしっかり遵守し、外から飼養衛生管理区域内に病原体を持ち込まない・拡げないことがなによりも大切です。

併せて、家畜飼養者の方は、家畜の死亡数が増える・特定症状があるなどの異状を発見されましたら、疾病を外に拡げないためにも、すみやかに家畜保健衛生所への通報をお願いします。(臼井・林)